情報機器を活用した社会科授業の実践

川本南小学校（実践者）雨宮　大地
（報告者）雨宮　大地

１．小単元名　「日本と関係の深い国々」　第６学年　（社会科）

２．小単元のねらい

我が国は、経済や文化の交流などを通して、世界の国々と深いつながりを持っていることを理解できるようにするとともに、平和を願う日本人として世界の国々と協調していくことが大切であることを理解できるようにする。

３．情報機器活用の意図

情報を収集する際、子どもたちは多種多様な資料を用いて調べるが、どれも間接的であり、その国の人々やそこに住んでいる人たちの生の情報ではないので実感的ではない。そこで、インターネットやＥメールを活用して、現地の日本人学校と交流したり、現地の日本大使館やその国に関するホームページ等で問い合わせたりする。子どもたちは、生の情報をより現実なものとして受け止め、自分たちの生活と結びつけてとらえることができると考えた。

４．小単元の指導計画（９時間扱い）

	時間	学　習　活　動・内　容	教師の支援（・）　評価（〇）
つかむ	1	世界地図を作ろう 〇世界地図を作ることによって、世界の中での日本の位置や、世界にはたくさんの国があることを確かめる。 ・学習カードの記入 ・日本の位置 ・世界の国々	・制作にとまどっている児童には、見本となる世界地図を見せながら助言する。 ・制作した地図に国ごとに色を塗らせる。 〇意欲的に地図の作製している。 〇日本の位置やたくさんの国々がわかる。
	2	調べる計画をたてよう 〇アメリカ・中国・サウジアラビア・韓国の４カ国の中から、自分の調べたい国を１カ国選び、その国の文化や日本との関係等を調べる計画をたてる。 ・それぞれの国についての話し合い ・調べる計画 ・どのように調べるか ・まとめ方	・児童が見通しをもって調べ学習ができるようワークシートを使用させる。 〇学習課題に対して、学習計画をワークシートに整理できる。
	3	自分の選んだ国について調べてまとめよう	・課題を明確にさせ、適切な助言をする。 ・今までの学習を振り返らせる。

調べる	・4	○自分の計画にしたがって調べてまとめる ・日本との関係 ・貿易 ・文化 ・生活 ・日本との共通点、相違点	・具体的な事項を取り上げながら、助言する。 ○課題解決に向けて意欲的に調べようとする。 ○自分にあった資料を収集し、生活の様子や文化などがわかる。
	5	調べたことをみんなに伝えよう ○各国のグループにわかれ、パビリオン形式の発表会を行う。 ・各グループを２つに分け、前後半で発表する ・疑問があるときは質問する ・ワークシートにわかったことを記入する	・調べたことをもとに工夫してまとめられるよう助言する。 ・日本と他の４カ国の関わり等について、自分の考えも合わせて書けるよう助言する。 ○日本と他の４カ国との関わりを考えたり、生活や文化の違いを受け入れながら、お互いに尊重し合うことが大切であることに気付く。
生かす	6・7	自分との関わりや興味関心のある国を探し、その国についてＥメールを利用して調べてみよう ○Ｅメールやホームページ等を利用して、多くの生の情報を収集したり、他の資料を用いて調べる。 ・文　化　・教　育　・貿　易 ・宗　教　・音　楽　・国　旗 ・気　候　・言　語など	・その国の生活や文化を端的に整理し、そこに生きる人々に共感できるよう助言する。 ○その国の人々の生活について、自分の生活と比較しながら調べようとする。 ○適切な資料等を収集して自分の課題に向かって取り組んでいる。
	8・9	諸外国について、自分の考えをまとめよう ○これまで調べたこと、収集した情報をまとめ、自分の考えを持つ。 ・各国と日本との共通点、相違点をまとめる ・世界の各国に対する自分の思いを明らかにし、自分の考えがもてるようにする	・コンピュータを活用するなどまとめ方を工夫させる。 ・日本との共通点や相違点などに気づかせるとともに日本とどのような関係があるか理解させる。 ○日本との関係・その国の生活や文化につい考え、お互いに尊重しあっていくことが大切であることに気づく。

５．成果と課題

Ｅメールを利用する事により、現地に、実際に住んでいる人とコミュニケーションをとることにより、他の資料には載っていないような情報を収集することができた。子どもたちも、より現実的な情報を集めることができ、後の学習にも意欲的に取り組んでいた。

今後は、メール・インターネット等の正しい利用の仕方、上手な利用の仕方などの指導を行っていくとともに、児童の「情報モラル」を育てていくことが大切であると感じた。